

使徒 2 章 1-11 節 「ことばから始まる教会」

ペンテコステは不思議な出来事でした。「激しい風が吹くような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。」(2 節)とあります。一人ひとりの内側に、小さな炭火のような神さまの愛に、外側からイエスさまに代わってやってきた聖霊の風に吹かれて、その炭火がどんどんどんどん大きくなっていくような形で響いたのです。聖霊は一人ひとりを用いてくださって、人々は「ほかの国々のことば」で話し始めました。そして一人ひとりが大胆に主イエスのこと、そして 11 節にあるように「神の偉大な業」について語り始めたというのです。

神がこの世界をお造りになったときに、「ことば」によってあらゆるものが創造されました。しかしその「ことば」によって、全地に散らされてしまいます。やがて救い主イエス・キリストが誕生しますが、人々の「ことば」によって十字架にかけられ葬られます。困惑していた弟子たちは、ペンテコステのこの日、聖霊による「ことば」によって出発したのです。9 節以下の地名は、いずれも蔑まれ、虐げられ、歴史の中に消えて行こうとしていた人々の地です。聖霊に満たされた人々が、最初に話し始めたのは、そうした人たちの小さな言葉・方言でした。これはイエス・キリストの弟子にふさわしいことでした。イエスさまが地上でなされたことは、小さな人々と交わり、その声を聞き、その思いを受けとめて、慰め、励まし、救うことだったからです。このお方によって救われ、このお方の力に満たされた者たちのなすべきこと。それは、今度は自分たちがイエスさまの思いを引き継ぎ、イエスさまになり、イエスさまに従って、生きていくことです。それがこの世にあって「キリストの証人になる」ということです。そしてそこにいた人たちが皆、弟子たちの話す言葉が分かり、この人々も大いに感激してその日洗礼を受けた人が 3000 人もいたということです。

私たちも、よく「ことば」で失敗をしてしまいます。余計な一言のせいで、どんどん関係を悪化させてしまったり、取り返しがつかなくなってしまう。聖書の時代から人々は、「ことば」によって多くの歴史を重ねてきました。本来は言葉が通じ合うことなく、お互いに理解することの困難な、さまざまな国や地方の人々でした。それが、聖霊による力によって、弟子たちが話している事柄が全て分かり、心が通い合わせられたというのです。聖霊が皆の言葉や、心の壁を壊してくれて、心が通い合うようになる。とても素敵なことが起こりました。聖霊というお方は、私たちの隔たりを取り除けてくださって、一つにしてくださるのです。そしてこの素敵な出来事は私たちの教会でも今、実現しているのです。私たちは聖霊にあって一つになることができます。お互いの違いが与えられていることを今日、もっと喜び合いましょ。今日の礼拝で、お互いに祝福を祈りましょ。そして私たちは今日、原点に立ち戻って本来の教会の姿を取り戻さなければならないのです。聖霊は生き生きとした教会を誕生させてくださったのです。神さまから与えられている「ことば」によって、私たちは生かされ、一つとされています。一人ひとりが聖霊をお迎えして、この信仰の共同体を、聖霊の力によって前進させていただきましょ。